



赤井 東 (あかい あずま)

活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループ

活断層・火山研究部門活断層評価研究グループの赤井 東と申します。昨年度までは東京大学大学院理学系研究科修士課程に在籍しながら、産総研では技術研修生として年代測定等を行っており、本年度から修士卒研究職となりました。

修士課程では、能登半島北部沿岸域の低位海成段丘から、令和6年能登半島地震を引き起こした海域活断層の平均変位速度を推定する研究を行っていました。産総研では、強靱な国土と社会の構築に資する地質情報と知的基盤を整備するために、日本列島の陸域・沿岸域の活断層調査および活断層 DB の整備と、強震動の予測精度の向上につながる主要活断層の三次元モデル作成業務に従事します。どうぞよろしくお願いいたします。



菊池 瞭平 (きくち りょうへい)

活断層・火山研究部門 火山活動研究グループ

活断層・火山研究部門の火山活動研究グループに着任いたしました菊池瞭平と申します。2024年3月に神戸大学で学位を取得しました。昨年度は山梨県富士山科学研究所に所属し、研究活動と並行して成果の一般普及を目的としたアウトリーチ活動にも携わってきました。専門は火山学・岩石学で、これまでの研究として、阿蘇カルデラ火山の大規模珪長質マグマの生成・進化過程の解明に取り組んできました。産総研ではこれまでのマグマ過程研究に加えて、地質調査から噴火活動史を明らかにすることに取り組み、より広範に火山活動を理解していくことを目指します。どうぞよろしくお願いいたします。



野田 朱美 (のだ あけみ)

活断層・火山研究部門 地震テクトニクス研究グループ

活断層・火山研究部門 地震テクトニクス研究グループの野田朱美と申します。2009年3月に東京大学大学院理学系研究科で学位を取得した後、株式会社構造計画研究所、防災科学技術研究所、気象研究所、気象庁において研究および実務の経験を積み、本年4月より当研究グループに着任いたしました。

これまで地震学を専門として、主に地殻変動データの解析を通じて地震準備過程の解明に取り組むとともに、その結果を踏まえた物理モデルの構築や地震発生ポテンシャル評価手法の開発を行ってきました。今後は高度な情報科学を取り入れ、研究の一層の深化を図りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。





寒河江 皓大 (さがえ こうだい)

活断層・火山研究部門 地震地下水研究グループ

地震地下水研究グループの寒河江皓大と申します。2022年3月に東北大学大学院理学研究科で学位を取得した後、2022年4月から2026年3月までの4年間、産総研特別研究員(ポスドク)として産総研に在籍し、今年度よりパーマナント型研究員として着任しました。

私は、プレート境界で発生するゆっくりとした断層すべり現象である「スロー地震」の研究を専門としています。スロー地震と巨大地震との力学的関係の解明を目指し、機械学習等を駆使して、スロー地震の発生過程に関する研究に取り組んできました。今後は研究成果を発展させ、防災・減災に資する堅牢な科学的知見の構築につなげていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



小森 純希 (こもり じゅんき)

活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループ

活断層・火山研究部門活断層評価研究グループの小森純希と申します。2021年に東京大学で博士取得後、シンガポール南洋理工大学でポスドクとして勤務していました。専門はフィールド調査を通じた地殻変動履歴の復元で、東京大学では地震により隆起した海岸段丘の調査を、シンガポールではサンゴの成長履歴に基づく海水準変動の復元に取り組んでいました。

フィールド調査だけでなく、力学的シミュレーション、数値モデルを使用したデータ解析によって、経験則や作業者の熟練度によらない推定や解釈の実現にも取り組んでいます。活断層の活動履歴評価を中心に、幅広い分野への貢献を目指しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



阪井 康真 (さかい やすまさ)

地圏資源環境研究部門 燃料資源地質研究グループ

本年度より、修士卒研究職として地圏資源環境研究部門の燃料資源地質研究グループに配属されました阪井康真と申します。大阪府出身で、神戸大学大学院海事科学研究科にて修士号を取得しました。大学では、日本海の表層型メタンハイドレート胚胎域で得られた堆積物中の間隙水・メタンガスの同位体分析を行い、表層型メタンハイドレートの成因について検討してきました。

今後は表層型メタンハイドレートの生成機構やポテンシャル評価に加え、日本に分布する天然ガスの成因や生成機構について広い視野で研究していきたいと考えています。未熟者ですが、学びを止めることなく精進していきますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。





酒井 博之 (さかい ひろゆき)

地圏資源環境研究部門 生物地球科学研究グループ

地圏資源環境研究部門生物地球科学研究グループに配属されました、酒井博之と申します。これまで理化学研究所にて基礎科学特別研究員として、地熱環境(酸性温泉)に生息する好熱性古細菌の分類および生理生態に関する研究に取り組んできました。特に、寄生性古細菌 DPANN と宿主微生物との相互作用に着目し、微生物間相互作用の理解を進めてきました。これまで知的好奇心に基づく基礎研究に取り組んできましたが、産総研ではこれまでの知見を活かし、社会課題の解決を目指して、微生物を用いた鉱山廃水処理などの環境浄化技術の開発や、地圏環境における微生物の役割の解明に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



黄 琬恵 (こう えんけい)

地圏資源環境研究部門 地圏サステナビリティ評価研究グループ

地圏資源環境研究部門地圏サステナビリティ評価研究グループ(主務)、およびネイチャーポジティブ技術実装研究センター(兼務)の黄 琬恵(こうえんけい)と申します。台湾出身で、京都大学大学院農学研究科にて博士の学位を取得しました。

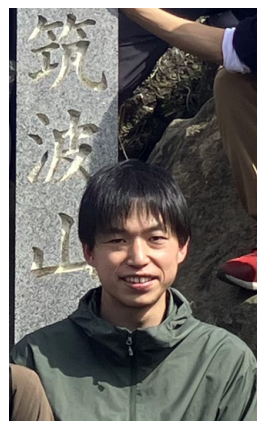
専門分野は農村計画学および都市計画学ですが、近年は生態系サービスの空間的評価や、土地利用シミュレーションによる将来予測を主な研究テーマとしています。社会課題の解決を目的とした政策導入によって土地利用や植生被覆がどのように変化し、それに伴い生態系がどのような影響を受けるのかを環境評価の観点から明らかにし、意思決定に資する情報提供を行うことで貢献していきたいと考えています。



平井 康裕 (ひらい やすひろ)

地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

新たに地質情報研究部門海洋地質研究グループの一員となりました平井康裕と申します。金沢大学(JAMSTEC 連携大学院)で博士号を取得後、5年間、埼玉県の小中学校で教員をしておりました。修士・博士課程では、調査船に乗って伊豆・小笠原諸島沖やニュージーランド沖の海底火山から岩石を採取し、分析を行ってきました。マグマの化学組成から、人間が直接見ることのできない地殻やマントルで何が起きているのかを考えることが好きです。今後は反射法地震探査のスキルを習得しながら、海洋地質調査を継続していきます。調査で得られた情報を、私がこれまで培ってきた岩石学の知見と合わせて、新たな情報を含む海底地質図として整備できるよう全力を尽くします。





鳶田 将貴 (しまだ しょうき)

地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ

地質情報研究部門リモートセンシング研究グループに配属となりました、鳶田将貴です。東京大学大学院工学系研究科で博士の学位を取得後、JAXA 地球観測研究センターのポスドク研究員として、衛星による地球観測研究に従事してきました。特に機械学習と時系列データを用いた土地利用・土地被覆変化の分析に取り組み、太陽光発電の拡大に伴う環境改変や農地利用の定量化を進めてきました。今後は地質に関する知識も深め、気候変動や人間活動に由来する地圏環境の変化、新エネルギーにつながる資源開発など広域把握が求められる課題に対し、衛星やドローンなどのリモートセンシング技術を活用して変化の定量化と情報整備に取り組みたいと考えています。



川畑 美桜子 (かわばた みおこ)

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

地質情報研究部門、平野地質研究グループに修士卒研究職として所属する川畑美桜子と申します。噴火で一瞬にして広域に飛散し、地層中で重要な鍵層となる火山灰に関心を持っています。これまでは、伊豆大島を主な対象として、火山灰層序および噴火年代推定の研究を行ってきました。特に最近数百～数千年程度の地層を扱う機会が多かったのですが、産総研では第四紀を通した年代の地層を対象に研究を行う予定です。様々な専門を持つ方々と共に研究し、より広い視野を持って火山灰データの時間的・空間的拡充と年代目盛の精微化に取り組みたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



菊地 一輝 (きくち かずき)

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

地質情報研究部門情報地質研究グループの菊地一輝です。千葉大学で学位取得後、京都大学でのポスドク、中央大学の助教を経て産総研に着任しました。専門は底生動物の巣穴や這い跡などの化石(生痕化石)です。主に白亜系から古第三系の深海堆積物を対象として、底生動物の行動様式の変化と地質学的イベントとの関係の解明を目指して研究してきました。地表踏査による地層と生痕化石の記載に加え、最近はボーリングコアや露頭画像から生痕化石を自動抽出するAIモデルの開発にも取り組んでいます。

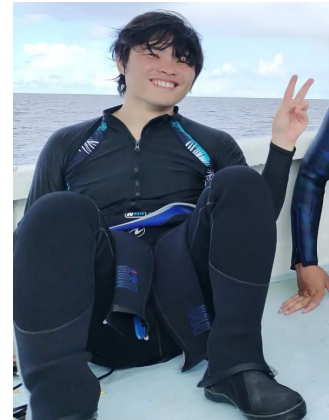
今後は地質地盤図の整備を担当します。興味の対象を沖積層など新しい地層にも広げ、生痕化石やAIモデルの知見を活かして貢献できればと思います。





儀武 滉大 (ぎぶ こうだい) ネイチャーポジティブ技術実装研究センター 自然資本診断技術研究チーム

こんにちは、儀武滉大です。沖縄高専(学部相当)、筑波大学大学院(修士)、東京大学大学院(博士)を経て、本年4月よりネイチャーポジティブ技術実装研究センター(主務)、地質情報研究部門海洋環境地質研究グループ(兼務)に着任しました。これまで、酵素に関する研究、植物寄生菌に関する研究、サンゴの共生微生物に関する研究に取り組んできました。産総研では、環境DNAや遺伝子発現解析などの分子生物学的手法を用いて生態系評価や人間活動の影響評価に資する技術開発と社会実装に取り組み、ネイチャーポジティブ社会の実現に資する研究を進めていく予定です。よろしくお願いいたします。



篠崎 航太郎 (しのざき こうたろう) 再生可能エネルギー研究センター 地熱研究チーム

本年度より再生可能エネルギー研究センター地熱研究チームに着任しました篠崎航太郎と申します。学部から博士課程まで一貫して九州大学におり、2026年3月に同大学院工学部において学位を取得した後、4月より産総研に入所しました。

専門はエネルギー社会科学です。これまでは、地熱発電開発の社会受容性にゲーム理論やAgent-based Modelを適用することで、社会科学的問題を数理的に分析していました。

今後はこれまでの私の経験を活かし、次世代型を含む地熱発電の適正利用拡大に向け社会受容性向上につながる研究活動に取り組めます。そのために、領域を超えた連携・協力を積極的に進めていく所存です。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



Santiago Galicia Edgar

(サンティアゴ ガリシア エドガー)

再生可能エネルギー研究センター 地中熱研究チーム

再生可能エネルギー研究センター地中熱研究チームに配属されましたSantiago Galicia Edgar(サンティアゴ ガリシア エドガー)と申します。メキシコで学部・修士課程を修了後、日本の電気通信大学にて博士を取得しました。2022年9月から佐賀大学で助教として勤務し、本年度3月から産総研に入所しました。これまで、地中熱利用、熱交換器、冷媒に関する研究に取り組み、特に機械学習を活用した熱伝導率予測や高効率な熱利用システムの開発を進めてきました。省エネルギーおよび脱炭素社会の実現に貢献することを目標としています。皆様、今後ともよろしくお願いいたします。





武田 与 (たけだ あたえ)

CCUS 実装研究センター CO₂ 地中貯留研究チーム

本年度より、研究戦略本部 CCUS 実装研究センター CO₂ 地中貯留研究チーム（主務）および地圏資源環境研究部門地圏資源化学研究グループ（兼務）に、修士卒研究職として着任いたしました，武田 与と申します。大学では炭酸塩岩の堆積学を専攻し，学部では鹿児島県沖永良部島，修士課程では沖縄県南大東島にてフィールドワークを中心とした研究を行いました。今後は CO₂ 地中貯留に最適な貯留層の選定や拡大，および天然水素合成に関する研究を通して，地質学に掛け合わせる新たなスキルを身につけたいと考えています。安全安心な地球温暖化対策技術の実現に向け，研究を通して貢献していきます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

